

令和 5 年 6 月 1 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H04354

研究課題名（和文）グローバル・ウェルフェアの実現と課題をめぐる文理協働型実証研究

研究課題名（英文）Cooperation of Humanities and Sciences to Establish an Empirical Research Project for Implementing and Examining "Global Welfare"

研究代表者

桜井 徹 (SAKURAI, Tetsu)

神戸大学・国際文化学研究所・教授

研究者番号：30222003

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,200,000円

研究成果の概要（和文）：最終年度の3月に、本研究課題の総仕上げとして、アイルランガ大学（インドネシア）を始めとする海外からの研究者をも招き国際研究集会を開催し、そこでの諸報告と意見交換から、本研究が対象としてきた移民・難民の起源地も、その地方文化は決して一枚岩でも同質的でもなく、複層的な構造と複雑な権力序列を内包しており、国際開発援助を試みる先進諸国と同じように高度に混成的で多様な意見に満ちているという知見を得ることができた。今後は、移民・難民の目的地のみならず起源地における複層性・権力性を明らかにすることが、いっそう詳細な問題分析と解決策の探究のための重要なカギになることが判明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究が対象としてきた移民・難民の起源地も、その地方文化は決して一枚岩でも同質的でもなく、複層的な構造と複雑な権力序列を内包しており、国際開発援助を試みる先進諸国と同じように高度に混成的で多様な利害と意見に満ちているという知見を得ることができた。今後、世界各地で国際開発援助を実施する場合にも、このような起源地における入り組んだ複層性・権力性を明らかにすることが、開発援助の効果的な遂行、そしてひいてはグローバルな規模の移民問題の詳細な分析や解決策の案出のための重要な前提になることを示すことができた。

研究成果の概要（英文）：As a completion of this research project, we invited many international scholars from Airlangga University, Indonesia, and held an international academic conference in Kobe University in March of 2023. From the presentations and discussions there, we have learnt that in many places of origin of international migrants and asylum-seekers the local cultures are not monolithic, homogeneous wholes, but have a multi-tiered, hierarchical power structure and comprise enormously diversified interests and opinions just as developed countries do. It will be an important future challenge for us to clarify the multilayered and hierarchical nature of the local cultures where international migrants and asylum-seekers leave to provide a more detailed analysis and an efficient solution for the migration issues we are facing.

研究分野：法哲学

キーワード：グローバリゼーション 開発 移住 難民 感染症 福祉

## 1. 研究開始当初の背景

- (1) 21世紀に入ってから欧州に流入する移民の規模は爆発的に増加しているが、差別や排外主義、極右政党の台頭、福祉国家モデルの危機などの多くの深刻な社会的課題をかかえている欧州の状況を反映して、受入国の政策や政治動向について多角的な研究が進められている。しかしその反面、これまでの移民研究は、移民や難民の起源地における人々の深刻な生活条件にいかに対処すべきかという課題に十分な注意を払ってこなかった。他方、国際協力論や開発研究においては、移民の起源地でもあるアジア・アフリカ諸国などにおける医療、教育、経済などにおける国際的支援という実践的課題を重視してきた反面、大規模な移民・難民の動態やその起源にまでその関心は及ばなかったため、その視野は支援の対象となる個々の地域に限局されてきた。
- (2) これらの研究が抱える共通の一つの問題点は、移民の受入社会と出身地とを切断してとらえている点にある。脱領域的なパーソナル・ネットワークに注目してきたトランスナショナル研究でさえ、多様な国際協力・開発支援が、移民・難民の起源地やその地域の住民の生活条件にいかなる長期的影響を与えるのかという問題を十分に顧慮してこなかった。
- (3) さらに、国際協力、開発援助の実現を目指す開発学とは距離をとり、開発という実践がはらむ問題点を批判的に検討してきた文化人類学や開発人類学においては、グローバリズムがもたらす政治的・経済的格差の拡大への批判を通じて「グローバルな正義」の実現をめざす法哲学などの他のディシプリンとの積極的な対話は、未だ不十分なものに留まっていた。また、医療や教育や経済の分野における具体的な国際協力・開発援助の現場が文理双方の多領域を横断する複雑な様相を帯びるにもかかわらず、国際的援助の現状と課題を、開発援助の受け手側の民俗宗教や世界観をも勘案しつつ再検討する作業に、文理両面の観点から体系的に取り組む作業も十分とは言えない状況にあった。
- (4) しかしながら、移民の動態をグローバルな観点からとらえようとするならば、それは、移民を惹きつける受入社会の制度面・文化面での便益(の見込み) プル要因(pull factor) と、住民を移民へと駆り立てる居住地の生活上・安全上のリスク プッシュ要因(push factor) との両面から分析される必要がある。換言すれば、移民問題とは、いかにして移民・難民を受け入れるべきかという“動態の出口”問題であるだけでなく、なぜ大規模な移民・難民が発生し続けるのかという“動態の入口”問題である。本研究が注目したのは、まさにこの“動態の入口”問題であった。

## 2. 研究の目的

- (1) 本研究課題の目的は、第一に、大規模な移民の動態の 出口でなく “入口”である地域に焦点を合わせ、そこに住む人々に今日、何が起こっており、何が彼らを移動へと駆り立てるのかという問題に、文理双方にわたる領域横断的な視角から実証的かつ理論的に現状分析のメスを入れることである。そして第二に、この分析結果を踏まえ、このような移民・難民の起源地において、移民・難民を彼らの起源地から流出させる圧力 プッシュ要因 をコントロールするためにいかなる実効的方策・制度が実現可能なのかという課題を検討・探究することである。移民・難民の起源地が現在抱える諸課題が、文理双方にまたがる複雑な様相をもつ以上、その地域の住民たちの生活条件がいかなる深刻な課題に直面しているかを明らかにするためには、これまで有機的かつ機動的に連携してきたとは言えない多くのディシプリンがその総力を結集する必要がある。

(2) 上述したように、本研究は、大規模な移民・難民の起源地に住む人々の基本的な生活条件の拡充・改善をめざして地球規模で展開する思想および実践の複合体を「グローバル・ウェルフェア」と総称し、移民・難民となる可能性をかかえる人々の生活条件をめぐる現実的課題と打開策とを、文理双方の多領域の専門家たちが連携して、実証的・理論的に探究する。国際協力・開発援助の現場では、種々の社会問題が必然的に文理両面にまたがる領域横断的性格をもつことに鑑みれば、この複雑な現実の全体像を正確に把握するためには高い専門性を具えた文理双方のエキスパートから構成される研究体制が必要なることは明らかである。移民・難民の起源地で生じている深刻な社会的障害・機能不全を緩和するため、多領域の専門家が協力して、現下の課題の実証的な分析とそれを打開するための方策の探究とに取り組むことは、安全、医療・保健、教育、就労機会などの“福利”が世界的に偏在している状況を改善するためにも不可欠かつ喫緊の課題である。

### 3. 研究の方法

本研究では、「グローバル・ウェルフェア」について三つの観点から研究を推進した。

#### (1) 移民・難民の起源地における生活条件の調査・分析

国際開発援助の現場を対象として、教育開発の観点から教育現場の実態調査を行ったほか、感染症や母子保健に関する実態調査や、住民の格差・排除に直結する現地のジェンダー認識に関する調査を進めた。さらに、欧米諸国の国際協力機関の活動方針とその背後の各国の政策を参照しつつ、国際開発援助の長期戦略および個々のプロジェクトの実態・効果を実証的に検討した。

他方、人類学的見地からは、医療、保健、教育等の分野における国際協力の実際の営みが、多様な文化をもつ住民によってどのように受け止められ、彼らの宗教観や世界観とどのように整合しているのかを調査し、国際協力の効果を長期的に上げるためにいかなる文化的な戦略・配慮が必要なのかを探究した。

#### (2) 「グローバル・ウェルフェア」観念の批判的検討

「グローバル・ウェルフェア」という観念はいきおい“普遍的”な規範言説の構築を伴うが、文化的差異に留意しつつそうした普遍的言説を理論化することが可能かどうかを追究した。その際、普遍性を自己主張する人権概念を、ローカルな宗教観・世界観と両立させるか否かが決定的に重要な問題となる。民俗宗教・道徳や世界観の具体的な多様性を重視する人類学的見地から、このような普遍的な言説が個別の地域社会によっていかに受け止められ、受容されるかを、観察・調査した。換言すれば、本研究が掲げる「グローバル・ウェルフェア」という普遍的目標に、ローカルな諸価値との整合性を保ちつつ、果たして、またいかに接近しうるかを、批判的に検討した。

#### (3) 具体的な社会システムのデザインとグローバルに妥当する普遍的規範との理論的統合

個別の地域が直面している政策課題を整理したうえで、医療・保健・教育・ICT等に関する国際的支援の文化的受容に関する実証調査の成果を、持続的な社会システムのデザインにいかに活用できるかを追究した。その際、多様な文化が根づく個々の地域に固有の課題を見極めることと並行して、諸々の地域を超えて普遍的に通用する問題系と政策課題を明らかにする作業が遂行された。とりわけ、社会システムのデザインにあたっては、国内法・国際法を、住民たちの福利を擁護・促進するためにいかに利用しうるかを検討した。

### 4. 研究成果

(1) 2023年3月に、本研究課題の総仕上げとして、アイルランガ大学（インドネシア）を始めとする海外からの研究者をも招き国際研究集会を開催し、そこでの諸報告と意見交換から、本研究が対象としてきた移民・難民の起源地も、その地方文化は決して一枚岩でも同質的でもなく、複層的な構造と複雑な権力序列を内包しており、国際開発援助を試みる先進諸国と同じように高度に混成的で多様な利害と意見に満ちているという知見を得ることができた。今後は、移民・難民の目的地のみならず起源地における複層性・権力性を明らかにすることが、いっそう詳細な問題分析と解決策の探究のための重要なカギになることが判明した。

(2) このような移民・難民の起源地における複層的な構造と複雑な権力序列の存在に鑑みると、このような複層的で堅牢な権力構造こそが、国外脱出を通じた新生活の探求と経済状況の改善とへと人々を駆り立てる一要因になっている可能性を決して否定できない。この点を踏まえると、「反省的な包摂」(reflective inclusiveness)という原理 移民の受入社会における個別主義的なナショナリスティックな感情と人権の普遍的尊重との価値的な対立を和らげるための道徳的原理 が、移民の起源地においてもまた適用されることが重要ではないだろうか。ここで「反省的な包摂」とは、もしもあなた自身の法的・政治的・経済的な地位と利益が人権の観念によって支えられ守られているのであれば、この点を省みて、他者の自由と平等への諸権利をも同様に尊重することを要求する規範的原理を指している。

より具体的に言えば、もし特に移民の受入社会で生じている文化的・倫理的対立や摩擦を緩和することを望むのであれば、文化的・政治的境界線の両側に位置する人たちがともに、他方の文化に対して反省的に包摂する態度を涵養する必要がある。反省的包摂の原理は、受入社会に、困窮した移民に対しては彼らが異なる宗教や世界観をもち出身地の文化的な生活様式を守るときでも包摂的に接するであることを要求するが、他方で、自由で民主主義的な社会に受け入れられ包摂されることを望む国際移民にも、受入社会が最も重視する法的・道徳的価値を尊重し遵守することを求めるのである。

(3) 本研究から得られた知見に依拠すれば、この原理を独り移民の受入社会だけでなく、その起源地に対しても応用する余地がある。つまり、自らの伝統的・慣習的な文化や規範を維持しようとする住民・集団の権限・権威は、所属する個々人の“平等”や“自己決定権”といった価値と矛盾する場合があるかもしれない。しかし反省的包摂の原理に従えば、かつてウニ・ウィカンが指摘したように「文化は決して個人の基本的諸権利に優先されてはならないし……、文化の尊重は個々人の安全と福利の尊重に譲歩しなければならない」<sup>1</sup>。この近代的原理が意味するのは、起源地の地域社会が普遍的な人権の概念に依拠して遂行される国際的な開発援助の恩恵に浴するのであれば、この地域社会もまた、女性・子どもや性的マイノリティを含めた同胞たちを自由と平等の価値に従って処遇することが論理的にも倫理的にも求められるということである。

(4) 社会相互間・地域相互間での経済力の構造的な不均衡・貧富の格差を解消するために、不平等・搾取的な貿易関係を国際舞台から一掃する必要があることは論を待たない。しかし半面、「グローバル・ウェルフェア」の改善と実現のためには、移民・難民の起源地であるか目的地であるかを問わず、反省的包摂の原理が普遍的に追求されなければならない。より具体的に言えば、普遍的な人権の理念に基づく国際援助に関してその“受益者”という地位を享受する地域社会は、その社会の構成員に対しては彼らの基本的人権を尊重する“後援者”たる姿勢をもって接する必要がある。もしこのような反省的包摂の原理が地域社会においても効果的に実現されるのであれば、基本的な生活条件がおびやかされ地域社会からの脱出を余儀なくされるような人々の規模もまた自ずと縮小に向かうのではないかと思われる。

---

#### 引用文献

<sup>1</sup> Unni Wikan, *In Honor of Fadime: Murder and Shame*. Translated by Anna Paterson. Chicago and London: Chicago University Press, 2008, 249.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 12件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 Utsumi Takako, Wahyuni Rury M., Dinana Zayyin, Gunawan Emily, Putra Arga S.D., Mubawadi Teguh, Soetjipto, Lusida Maria I., Shoji Ikuo	4. 巻 13
2. 論文標題 G2P[4] rotavirus outbreak in Belu, East Nusa Tenggara Province, Indonesia, 2018	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Infection and Public Health	6. 最初と最後の頁 1592 ~ 1594
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jiph.2020.05.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Wulandari Putri Sari, Juniastuti, Wahyuni Rury Mega, Amin Mochamad, Yamani Laura Navika, Matondang Muhammad Qushai Yunifiar, Dinana Zayyin, Soetjipto, Utsumi Takako, Shoji Ikuo, Lusida Maria Inge	4. 巻 92
2. 論文標題 Predominance of norovirus GI.4 from children with acute gastroenteritis in Jambi, Indonesia, 2019	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Medical Virology	6. 最初と最後の頁 3165 ~ 3172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jmv.26057	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Sanfo Jean-Baptiste M.B., Ogawa Keiichi	4. 巻 29
2. 論文標題 Explaining the rural-urban learning achievements gap in Ethiopian primary education: a re-centered influence function decomposition using Young Lives data	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Education Economics	6. 最初と最後の頁 269 ~ 297
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09645292.2021.1872504	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Utsumi Takako, Lusida Maria Inge, Dinana Zayyin, Wahyuni Rury Mega, Soegijanto Soegeng, Soetjipto, Athiyah Alpha Fardah, Sudarmo Subijanto Marto, Ranuh Reza Gunadi, Darma Andy, Juniastuti, Ishii Koji, Shoji Ikuo et al.	4. 巻 88
2. 論文標題 Molecular epidemiology and genetic diversity of norovirus infection in children hospitalized with acute gastroenteritis in East Java, Indonesia in 2015?2019	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Infection, Genetics and Evolution	6. 最初と最後の頁 104703 ~ 104703
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.meegid.2020.104703	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sakai Moeno, Nakazawa Minato, Abraham Delpihn	4. 巻 20
2. 論文標題 The comparison of ambulatory activity among people living in different regions, and relationship with BMI in Pohnpei state, the Federated States of Micronesia: Cross-sectional study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Obesity Medicine	6. 最初と最後の頁 100297 ~ 100297
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.obmed.2020.100297	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Umeya Kiyoshi, Kirumira K. Edward	4. 巻 54
2. 論文標題 Obwavu : The Cultural Concepts of Poverty Narrated among Refugees in Central Uganda, Part I	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際文化学研究 : 神戸大学大学院国際文化学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 39 ~ 291
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/81012499	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sakai Moeno, Nakazawa Minato, Abraham Delpihn	4. 巻 17
2. 論文標題 Health and Diet among People Living in an Isolated Area: Case Study of Pingelap Island in Pohnpei State, the Federated States of Micronesia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 7839 ~ 7839
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph17217839	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Umeya Kiyoshi, Kirumira K. Edward	4. 巻 55
2. 論文標題 Obwavu : The Cultural Concepts of Poverty Narrated among Refugees in Central Uganda / Part II	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際文化学研究 : 神戸大学大学院国際文化学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 1 ~ 106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/81012661	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Truong Thu Ha, Ogawa Keiichi, Sanfo Jean-Baptiste M.B.	4. 巻 2
2. 論文標題 Educational expansion and the economic value of education in Vietnam: An instrument-free analysis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Educational Research Open	6. 最初と最後の頁 100025 ~ 100025
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijedro.2020.100025	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 太田 和宏	4. 巻 61
2. 論文標題 東南アジアにおける新型コロナ対応と地域秩序	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 37-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Athiyah Alpha Fardah, Utsumi Takako, Wahyuni Rury Mega, Dinana Zayyin, Yamani Laura Navika, Lusida Maria Inge, Shoji Ikuo, et al.	4. 巻 10
2. 論文標題 Molecular Epidemiology and Clinical Features of Rotavirus Infection Among Pediatric Patients in East Java, Indonesia During 2015?2018: Dynamic Changes in Rotavirus Genotypes From Equine-Like G3 to Typical Human G1/G3	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Frontiers in Microbiology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fmicb.2019.00940	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Gunawan Emily, Utsumi Takako, Wahyuni Rury M., Dinana Zayyin, Sudarmo Subijanto M., Shoji Ikuo, Soetjipto, Lusida Maria I.	4. 巻 12
2. 論文標題 Post-vaccinated asymptomatic rotavirus infections: A community profile study of children in Surabaya, Indonesia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Infection and Public Health	6. 最初と最後の頁 625 ~ 629
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jiph.2019.02.015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Wokadala, James ; Ogawa, Keiichi ; Kizito, Omala	4. 巻 10
2. 論文標題 Effectiveness of facilities grants on the equitable access to schooling in Ugandan primary education	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Africa Educational Research Journal	6. 最初と最後の頁 108-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.50919/africaeducation.10.0_108	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sakurai, Tetsu	4. 巻 -
2. 論文標題 The Borders of Law	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 H. Takikawa ed. Rule of Law and Democracy (Archiv fuer Rechts- und Sozialphilosophie Beiheft 161)	6. 最初と最後の頁 41-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田和宏	4. 巻 59
2. 論文標題 開発協力大綱と日本の外交戦略 : 内向きな「国益」追求	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 60-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅屋潔	4. 巻 6
2. 論文標題 アパルトヘイトとゼノフォビアのレジリエンス 南アフリカのウーバー・ビジネスに見るエスニシティとシティズンシップから	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 多文化社会研究	6. 最初と最後の頁 317-338
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤剛	4. 巻 -
2. 論文標題 「生活実感」からの再出発 モロッコのベルベル人男性ハーッジとの出会いと歌舞アホワーシュ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中尾世治・杉下かおり（編）『生き方としてのフィールドワーク』東海大学出版会	6. 最初と最後の頁 174-203
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 小川啓一
2. 発表標題 Research Capacity Development in Lao Higher Education
3. 学会等名 第55回日本比較教育学会全国大会、東京外国語大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ogawa, K
2. 発表標題 SDGs and Education: Teacher Development and School Facility Installment in Early Childhood Care and Education (ECCE) in ASEAN Countries
3. 学会等名 The 6th IAFOR International Conference on Education, Honolulu Convention Center, Hawaii, USA (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 Yoshii, Masahiko ; Yi, Chae-Deug	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 100
3. 書名 An economic analysis of Korea-EU FTA and Japan-EU EPA	

1. 著者名 Dominique Casajus ; Tetsuo Nishio ; Francois Pouillon ; Tsuyoshi Saito	4. 発行年 2021年
2. 出版社 National Museum of Ethnology	5. 総ページ数 203
3. 書名 Sur la notion de culture populaire au Moyen-Orient : approches franco-japonaises croisees	

1. 著者名 Yijia Jing, Jung-Sun Han, Keiichi Ogawa	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 254
3. 書名 Risk Management in East Asia: Systems and Frontier Issues	

1. 著者名 中澤 港	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 232
3. 書名 Rによる人口分析入門	

1. 著者名 Hazama, Itsuhiro ; Umeya, Kiyoshi ; Nyamnjoh, Francis Francis B. Nyamnjoh ; Kiyoshi Umeya ; Itsuhiro Hazama	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 416
3. 書名 Citizenship in Motion: South African and Japanese scholars in conversation	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	太田 和宏 (OHTA Kazuhiro) (00273748)	神戸大学・人間発達環境学研究所・教授  (14501)	
研究分担者	杉下 智彦 (SUGISHITA Tomohiko) (00795015)	東京女子医科大学・医学部・客員教授  (32653)	
研究分担者	大月 一弘 (OHTSUKI Kazuhiro) (10185324)	神戸大学・国際文化学研究所・教授  (14501)	
研究分担者	辛島 理人 (KARASHIMA Masato) (20633704)	神戸大学・国際文化学研究所・准教授  (14501)	
研究分担者	工藤 晴子 (KUDO Haruko) (20910037)	神戸大学・国際文化学研究所・講師  (14501)	
研究分担者	中澤 港 (NAKAZAWA Minato) (40251227)	神戸大学・保健学研究科・教授  (14501)	
研究分担者	勝二 郁夫 (SHOJI Ikuo) (40356241)	神戸大学・医学研究科・教授  (14501)	
研究分担者	新川 匠郎 (Niikawa Shoo) (60802486)	神戸大学・国際文化学研究所・講師  (14501)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	青山 薫 (AOYAMA Kaoru) (70536581)	神戸大学・国際文化学研究所・教授  (14501)	
研究分担者	梅屋 潔 (UMEYA Kiyoshi) (80405894)	神戸大学・国際文化学研究所・教授  (14501)	
研究分担者	小川 啓一 (OGAWA Keiichi) (90379496)	神戸大学・国際協力研究科・教授  (14501)	
研究分担者	齋藤 剛 (SAITO Tsuyoshi) (90508912)	神戸大学・国際文化学研究所・教授  (14501)	
研究分担者	益田 岳 (MASUDA Gaku) (00455916)	東京女子医科大学・医学部・助教  (32653)	
研究分担者	クラクストン ジェームズ (Claxton James) (90792341)	神戸大学・法学研究科・特命教授  (14501)	削除：2019年9月17日

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会	開催年
The Contemporary Dynamics of Diverse Perspectives on Life and Death (Center of Migration Research Seminar, Kobe University)	2023年～2023年

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関